

知識集約型社会を支える人材育成事業 事後評価結果

大学名	千葉大学	整理番号	7
メニュー	メニューⅢ．インテンシブ教育プログラム		
事業計画名	インテンシブ・イシュー教育プログラムのモデル展開		

（「知識集約型社会を支える人材育成事業委員会」による評価）

【総括評価】

S：計画を超えた取組が行われ、優れた成果が得られていることから、本事業の目的を十分に達成できたと評価できる。

【コメント】

大学の改革方針を踏まえた本事業の位置づけ及び教育改革の実施基盤については、中期目標・中期計画に設定された教育改革の理念に基づき、全学の教育改革を担う高等教育センターと国際教養学部が連携して基盤を整備し、本事業計画で掲げた取組を遂行し、その成果を全学展開するという点で、着実に取り組まれたことが評価できる。

事業計画の達成状況については、大規模な改革であるにもかかわらず、カリキュラム編成とその改善・実践において優れた成果を示したことは評価できる。とりわけ、本事業計画の重要な取り組みである「セルフデザインギャップターム」の設定が完全ターム制の実施における最大のメリットであることを示したこと、イシューを中心に科目を集約した「バンチプログラム」を設定することにより幅広い学修と集約的学修のトレードオフを克服する工夫がなされたことは重要な成果であり、高く評価できる。

事業の継続性については、学内体制も整備されていることや特任講師が担ってきたプログラム運営は補助事業終了後に学務委員会にて移管されていること、今後の運営の検討のための作業ワーキンググループがすでに運用を開始していること、また資金的にも外部資金を活用するなど、継続的かつ発展的に事業を実施できる基盤も整い、今後の展望が期待される。

事業成果の先進性と普及については、「セルフデザインギャップターム」の設定や学生による自己設計科目の開発など、学生の主体的な学びの実現のモデルといえるものになっていることは高く評価できる。また、「モジュール科目群の設定」と「バンチプログラム」という工夫は他大学の参考となる取組であるため、今後の普及を大いに期待したい。また、「メジャープロジェクト・ループリック」の開発と運用は、その成果が期待される取組である。

採択時に付された留意事項、委員フォローアップ報告書及び現地視察報告書に付された課題・意見への対応については、適切に改善への取組がなされたこと、事業計画での取組を通じて判明した課題に対して、教員や学生の声を踏まえた修正が柔軟に行われたことも評価できる。